

アレルギー性皮膚炎という病名を聞いてみなさんは具体的にどんな病態を考えますか？化粧品かぶれや金属アレルギーを思い浮かべた方はある意味正しい判断をされていることになるかと思いますが、実はわれわれ皮膚科医が使用する主だった皮膚科の教科書をみても、アレルギー性皮膚炎という病名を見出すことがほとんどできません。確かに勉強したことはないし、先輩から教わった記憶もありません。教科書に記載されていない疾患名だけどいったい何者、ということになるのですが、検索してみると ICD (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, 国際疾病分類) 10 にその名を見つけることができます。現行の ICD10 は約 14,000 項目より構成されているそうですが、ICD10 の階層をたどっていくと、LL00-L99 皮膚および皮下組織の疾患→L23 アレルギー性接触皮膚炎→L23.9 アレルギー性接触皮膚炎, 原因不明→分類番号 20051092 アレルギー性皮膚炎に行きつきます。つまり、アレルギー性皮膚炎は ICD10 ではアレルギー性接触皮膚炎の一つに分類されているので IV 型アレルギー反応による疾患と捉えることができます。この ICD の作成にどこまで皮膚科が関与しているかは存じ上げませんが、蛇足ながら最近 ICD-11 に改訂され、近々運用が始まる予定だそうです。

ここで日常診療において、例えばレセプト請求の際にアレルギー性皮膚炎という病名を用いると、この病名で非特異的 IgE・特異的 IgE 検査を認めてよいのか、という問題点が生じます。アレルギー性皮膚炎（接触皮膚炎）は IV 型アレルギー反応に区別され、IgE 測定は I 型アレルギー疾患に用いる検査であることから適応外・不適切と判断するのが妥当だと考えますが、ネットで検索すると、アレルギー性皮膚炎はアレルギー性炎症によって発症する湿疹皮膚炎で接触皮膚炎やアトピー性皮膚炎が含まれるというコメントも見つかるので頭が混乱してしまいます。IgE の検査はアレルギー性鼻炎では可でアレルギー性皮膚炎では不可だということのも慣れない者にはややこしい話です。

しかしながら、そもそも皮膚科の教科書にはでてこない病名であり、使われる先生は主に皮膚科以外の先生方と推察しますので、皮膚科を標榜するからにはアレルギー性皮膚炎という病名は使うべきではないと考えます。

(五十嵐敦之)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第 64 巻 第 6 号 5 月号

2022 年 5 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行)

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 47,630 円 (本体 43,300 円 + 税 10%)

[年間 13 冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY < 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。